

Win書庫V4インストールファイルは、STSホームページの「Win書庫V4のページ」にあります。インストールファイルは、必ず最新版をダウンロードしてご利用下さい。

ファイル名： WS4install.EXE



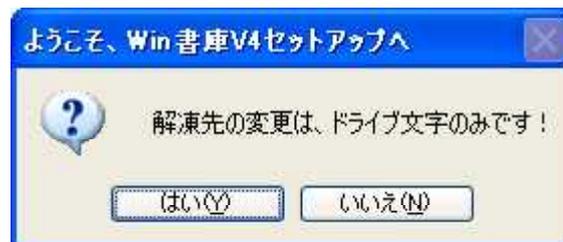
※アイコン画像は、リリースにより異なる場合があります。

## 1. インストールファイルの展開

ダウンロードした「インストールファイル（ファイル名 WS4install.EXE）」を、ダブルクリックします。

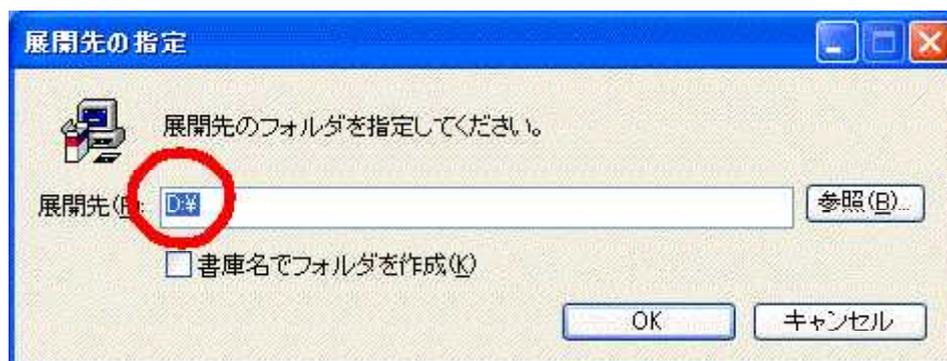
注意： 以下の手順や画面構成は、Windowsのバージョンにより若干異なりますが、基本的には、画面の指示に従って作業して下さい。

◇ようこそ、Win書庫V4セットアップへ



<はい>をクリックして先に進みます。

◇展開先の指定



Win書庫V4をセットアップするドライブ名を指定します。変更する場合は、ドライブ名のアルファベット1文字だけを変更して下さい。ドライブ名は、大文字でも小文字でもOKです。

展開先がよければ、<OK>をクリックします。

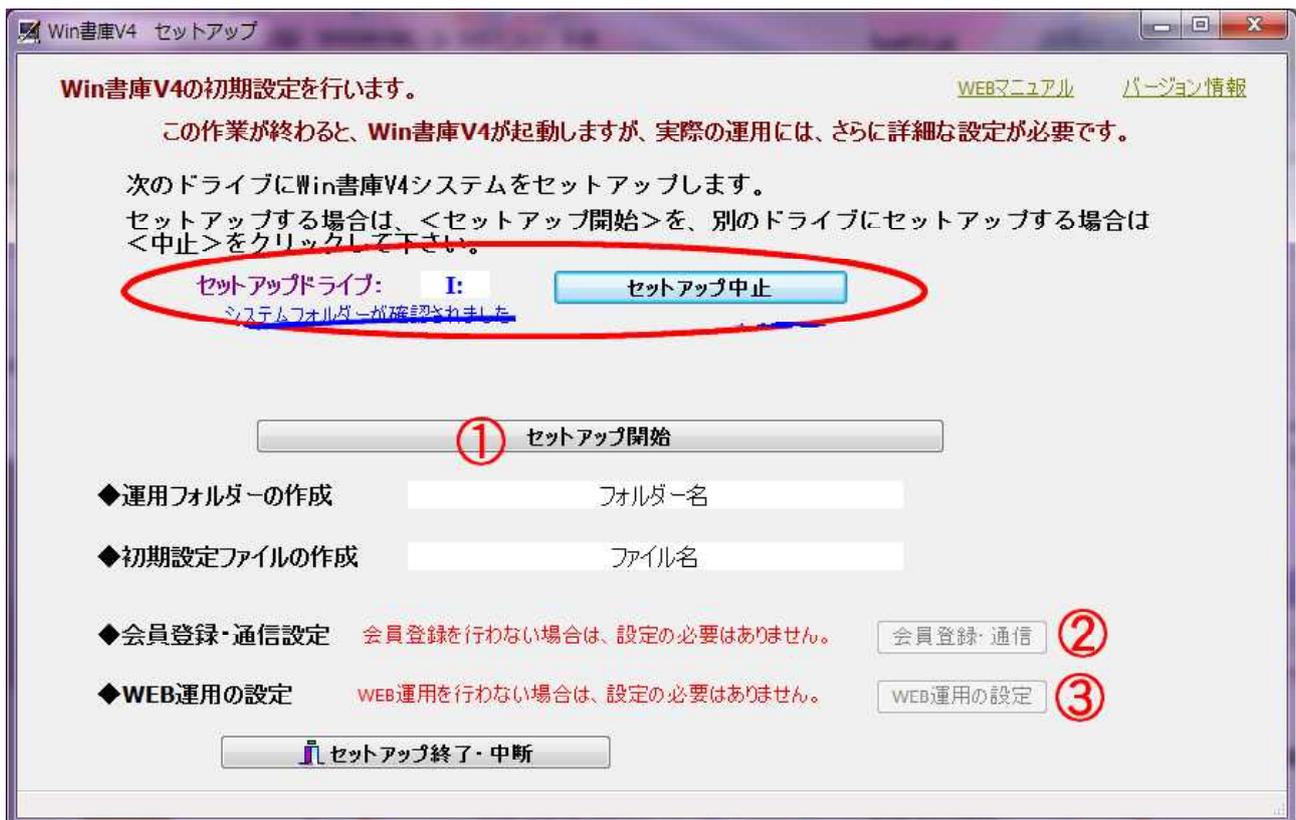
指定したドライブにファイルが展開されます。  
(この作業には、少し時間がかかります。)

展開が終わると、<Win書庫V4 セットアップ>が起動します。

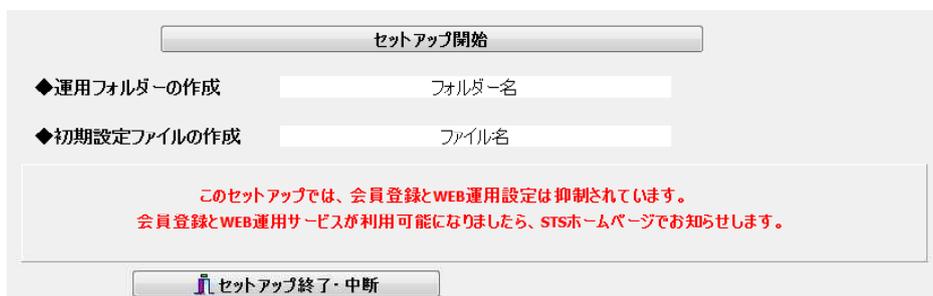
## 2. セットアップの実行

### ◇セットアップ開始

セットアッププログラムが起動した直後の画面で、「システムフォルダーが確認されました」という表示が無い場合は、セットアップファイルが正しく解凍できなかった可能性があります。＜セットアップ中止＞ボタンをクリックして、セットアップを中止して下さい。（セットアップファイルをダウンロードし直して下さい。）



現在のセットアッププログラムでは、②③は次のようにマスクされています。



### ① セットアップ開始

「システムフォルダー」が正しく確認できたら、＜セットアップ開始＞ボタンをクリックします。

＜セットアップ開始＞ボタンをクリックすると、必要なフォルダー群が作成された後、「学校設定ファイル」パネルが開きます。

## ◇学校設定ファイル

ここでは、ユーザー校(図書館)の基本情報を入力します。

参考:

Win書庫V4セットアップ設定ファイルがある場合は、ドライブにセットして参照できる状態にしてから、<セットアップ設定ファイル参照>ボタンをクリックして下さい。設定値を読み込むことができます。

学校番号： 相互貸借を行う学校グループを形成する場合は、グループ内で、あらかじめ重複しない学校番号を決めておく必要があります。グループを形成しない場合は、任意の番号を入力して下さい。(運用を開始してからは、変更できません。)

正しい設定値を入力して、<登録>ボタンをクリックして下さい。

注意： 2013/7/31版インストールでは、このセットアップメニューから「会員登録」や「WEB運用設定」を行う事はできません。これらの設定はWin書庫メニュー {システム設定} および {学校設定} から行う事ができます。設定可能になりましたら、STSホームページでお知らせします。

## ◇セットアップの終了へ

### ② 会員登録・通信

会員登録を行う場合は、<会員登録・通信>ボタンをクリックします。  
※会員登録には、STSが発行する「会員番号」が必要です。

会員登録しない場合は、このパネルでの設定は不要です。

A1 6桁の会員番号を入力します。

A2 有効化ボタンをクリックして、ユーザー登録します。

B1 V4運用時に各種情報を取得するサーバーを指定します。(STSから指定がある場合は、指定されたサーバーを選択して下さい。)

B2 サーバーとの通信テストを行います。

C このパネルの設定を登録します。

### ③ WEB運用の設定

WEB運用を利用することで、グループ校との間で蔵書資料の共有化が可能になります。運用にはWEBサーバーが必要です。詳細はSTSにお問い合わせ下さい。

※ WEB運用の設定には「オプション設定値」が必要です。オプション設定値を取得するには、サポート契約が必要です。オプション設定値を取得している場合は、＜WEB運用の設定＞ボタンをクリックして、設定を行って下さい。

WEB運用しない場合は、このパネルの設定は不要です。

WEB運用しない WEB運用を行わないのに、このパネルが開いた時は、設定を行わずに左のボタンをクリックしてパネルを開いて下さい。

◇WEB運用の設定

学校番号: **A** 013 エンター 1~999 WEB運用する場合は、学校グループ内で、異なる学校番号を付ける必要があります。左に表示されている学校番号が、もし違っている場合は、ここで正しい番号に変更してエンターキーを押して下さい。

学校名: **B** STS学園高等学校

WEBユーザーアカウント名: **C** h123d45v STSが指定した8桁のユーザー識別名を入力して下さい。

サーバーアドレス: **D1** http://winsyoko.pv.land.to/ws4/ **D2** 接続テスト 独自のサーバーを使用する場合は、そのサーバーのURLアドレスを、そうでない場合は、STSから指定されたサーバーを選択して下さい。注意:「通信設定と同じサーバーを使用します。」

**E** 登録 中止

A 学校設定パネルで設定した学校番号と同じ番号です。

B 学校設定パネルで設定した学校名（図書館名）です。

C STSが発行する8桁の固有IDです。このIDは、会員校を識別する重要なものです。

D1 会員登録パネルで指定したサーバーを指定します。

D2 サーバーとの通信テストを行います。

E WEB運用パネルの内容を登録します。

### ◇セットアップの終了

Win書庫V4 セットアップ

Win書庫V4の初期設定を行います。 WEBマニュアル バージョン情報

この作業が終わると、Win書庫V4が起動しますが、実際の運用には、さらに詳細な設定が必要です。

次のドライブにWin書庫V4システムをセットアップします。  
セットアップする場合は、＜セットアップ開始＞を、別のドライブにセットアップする場合は＜中止＞をクリックして下さい。

セットアップドライブ: **I:** システムフォルダーが確認されました。 セットアップ中止

◆運用フォルダーの作成  フォルダー名

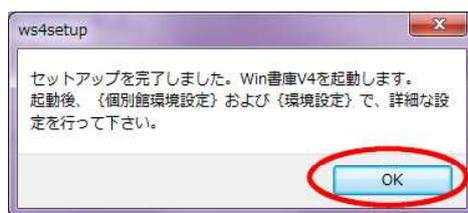
◆初期設定ファイルの作成  ファイル名

◆会員登録・通信設定 会員登録を行わない場合は、設定の必要はありません。 会員登録・通信

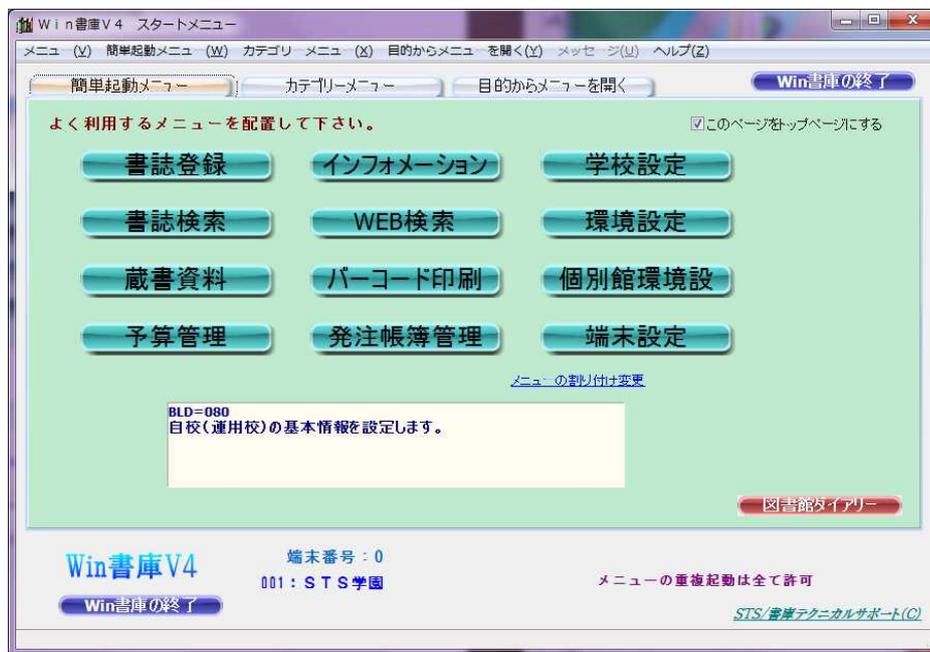
◆WEB運用の設定 WEB運用を行わない場合は、設定の必要はありません。 WEB運用の設定

**セットアップ終了・中断**

＜セットアップ終了・中断＞ボタンをクリックします。



<OK>をクリックすると、Win書庫V4が起動します。



セットアップ作業により、デスクトップに次のアイコンが作られます。次回からは、このアイコンをダブルクリックして、書庫を起動します。



Win書庫V4

参考： 書庫メニュー実行時に次のようなエラーメッセージが表示される場合は、ランタイムライブラリーファイルの不足が原因です。必要なランタイムライブラリーは、全て WS4¥Binフォルダー に保存されているはずですが、もし不足している場合は、ライブラリーの名前（注）を確認して、STSに連絡をお願いします。



注： ライブラリー名は、赤丸部分に表示されます。

### 3. 環境設定の実行

運用開始に必要な最低限の設定は、以下の各項目です。既定値が登録されている場合、必要に応じて変更してから運用を開始して下さい。

- ・学校設定 [学校番号/学校(図書館)名/学年数/学級数/クラス人数]  
(この設定は、すでにセットアップ時に行っています。)
- ・システム設定 [蔵書登録番号の形式/利用者登録番号の形式]  
(初期設定は共に「10桁標準形式」です。初期設定にそのまま運用する場合は、設定の必要はありません。)
- ・個別館書誌項目 (資料登録時に必要な各種設定を行います。)

受入書店……本の購入書店と割引率などを設定します。

受入種別……既定値 [購入/保管転換/購買利益金] が登録されています。  
異なる設定で運用する場合は変更して下さい。

受入費目……既定値 [公費/私費/購買利益金] が登録されています。  
異なる設定で運用する場合は変更して下さい。

資料種別……既定値 [図書/AV資料/雑誌/その他] が登録されています。  
異なる設定で運用する場合は変更して下さい。

- ・端末設定 (端末毎の個別に行う設定です。)

バックアップ…既定値 [バックアップしない] が設定されています。  
異なる設定で運用する場合は変更して下さい。

NDL-OPAC検索…既定値 [検索する] が登録されています。  
異なる設定で運用する場合は変更して下さい。

※ 上記の設定項目は、運用開始にあたって必要な、最低限の項目です。必ず設定値を確認して、自館の運用に適切かどうかをご確認下さい。

#### ◇蔵書登録を始める前に：

図書館の運営は、地域毎、学校毎に多様な形態があります。また、操作する個人個人によっても、最良の環境は異なっています。Win書庫V4には、これらを最適な環境にする為に、様々な設定を行う事ができます。そして、これらの設定の中には、運用を開始してから(資料を登録した後から)では、変更するのがやっかいな設定もあります。(例えば、「個別館環境設定」の各項目) 蔵書登録を始める前に、必ずこれらの設定メニューに眼をとおし、必要な項目の設定をお願いします。また、個々のメニュー画面でも、メニューバーにそのメニュー固有の設定項目がある場合があります。これらの設定にも眼をとおして下さい。設定をするかしないかで、作業効率が大きく異なるかも知れません。

◇学校設定 {簡単起動メニュー} {学校設定} から起動します。

この設定は、Win書庫V4セットアップ時に行っているのので、正しく設定されているか確認して下さい。

#### <学校番号> ※館番号

- ・ 館番号（学校番号）は、自館と他館を識別する為に利用します。相互貸借を行う学校グループ（グループ名などの登録が必要）で、重複の無い番号を設定しなければなりません。相互貸借を行なわない場合は、特に必要のない番号ですが、{学校設定}では、必須設定の項目なので、任意の番号を登録して下さい。（「相互貸借」の設定や「WEB設定」のマニュアルをお読み下さい。）
- ・ 学校番号（館番号）は、運用開始後は変更できないのでご注意ください。

#### <学校名（図書館名）>

- ・ 運用開始後も変更する事が可能です。

#### <学年数/組数/クラス人数>

- ・ 年度途中で変更することはできません。

#### <マスターアカウント名/パスワード>

- ・ マスターアカウント名/パスワードは、「認証」を有効にして運用する場合に必要です。認証を有効にしない場合は、登録しなくても問題はありません。
- ・ 「認証」を有効にするのは、書庫の運用に慣れてからをお勧めします。

◇システム設定 {簡単起動メニュー} {システム設定} から起動します。

システム設定は、Win書庫V4の動作の基本設定を行うものです。特に問題が無い場合は、既定値で運用して下さい。変更して運用する場合は、{システム設定}メニューのマニュアルに記述してある各設定項目の注意事項をよくお読み下さい。



#### < 蔵書登録番号の設定 >

- Win書庫V4では、蔵書登録番号は6桁の番号で内部処理します。システムに登録したバーコード形式と異なる形式のバーコードをスキャン（入力）した場合は、次のように動作します。

6桁以下の番号の場合……そのまま登録番号として処理します。

7桁以上の番号の場合……下6桁を登録番号として処理します。

システムに登録したバーコード形式のバーコードがスキャンされた場合は、形式指定に従って、「館番号（学校番号）」と「登録番号」にデコードされます。

- 蔵書登録番号で使用する「館番号」は、「相互貸借」にかかわる処理で利用します。したがって、相互貸借を行わないで運用する場合は、必須ではありません。

※必須ではありませんが、特に問題が無ければ、館番号付き10桁の標準番号で運用する事を推奨します。

- 既に蔵書に添付してあるバーコードの形式が、継続してWin書庫V4でも使用できるかどうかは、STSサポート窓口にご相談して下さい。（サポート会員のみ）

## <利用者登録番号の設定>

- Win書庫V4では、利用者番号（利用者ID）は、「利用者種別番号 1桁」＋「西暦年度 2桁」＋「利用者番号 4桁」（合計 7桁）の番号で内部処理します。この内部コードに、3桁の館番号を加えた 10桁バーコードが、利用者登録番号の標準形式です。
- スキャンしたバーコードは、システムに登録された「利用者登録番号の形式」に従って、「利用者種別番号」「館番号」「入学年度」「利用者番号」にデコードされた後で、内部コードに変換して処理を行います。
- スキャンされたバーコードが、正しくデコードできなければ、無効なIDと判断して処理を中断します。この点が、蔵書登録番号の処理と異なることにご注意下さい。
- 現在使用中の利用者登録番号の形式が、継続してWin書庫V4でも使用できるかどうかは、STSサポート窓口にご相談して下さい。（ポート会員のみ）

<その他の設定項目>      ここに示した設定項目は、その仕組みを理解して運用しないと、トラブルを起こしやすいものばかりです。設定する場合は、マニュアルをよく読み、注意点を理解して下さい。

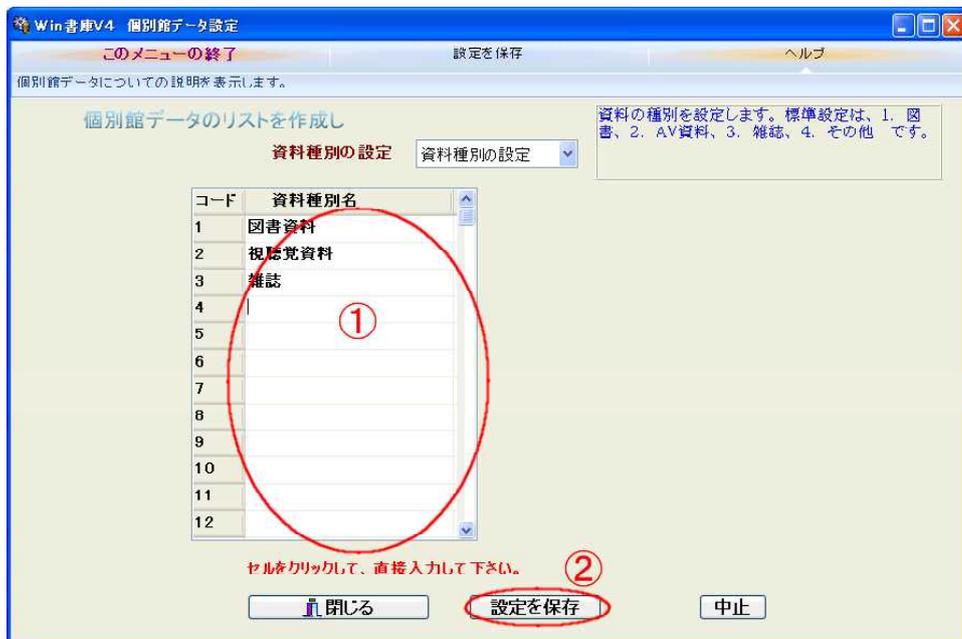
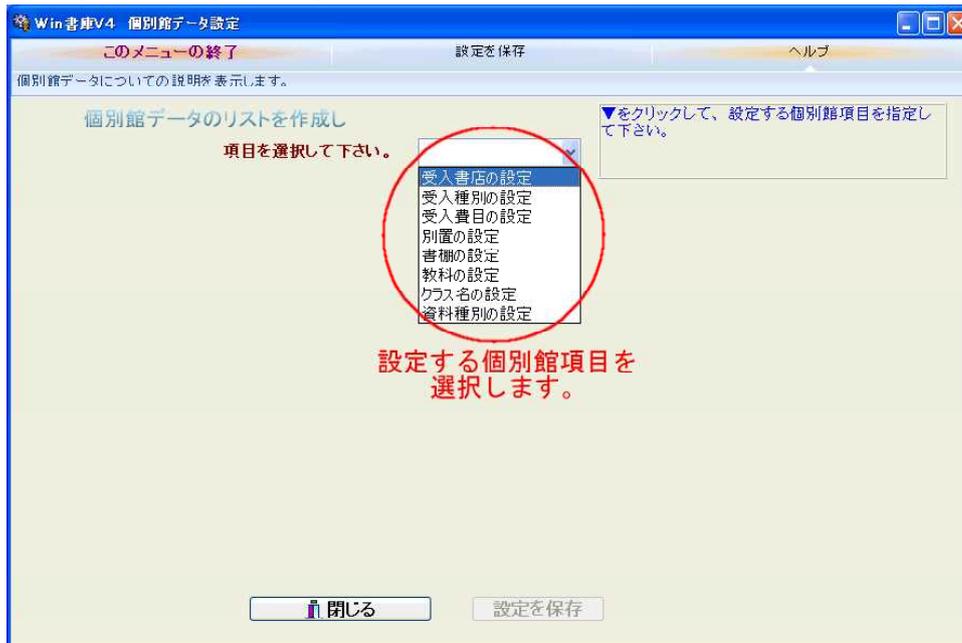
- **メニュー起動の認証：** Win書庫V4を使用するユーザーを登録し、ユーザー毎に「管理者」「職員」「生徒」の3種類の権限で、書庫メニューの起動を制限します。
- **メニューの重複起動：** この設定を有効にすると、複数の端末で同じメニューを同時に起動することが可能になります。同時起動した場合は、「データの競合書き込み」に注意する必要があります。競合書き込みを自動的に回避するには、「排他制御」を有効にする必要がありますが、注意深く運用することで、排他制御を利用しなくても、競合書き込みを防ぐことは可能です。  
  
注意：      メニューの重複起動を有効にしても、同一端末では、同じメニューを複数起動することはできません。
- **基本書誌データ：** 資料に固有の書誌情報を、全てNDL-OPACに依存し、基本書誌データベースを作成しないで運用する場合は、「所蔵を記録」にチェックを入れて運用します。ローカルコンピュータに、あまり大きなデータを置けない場合などに設定しますが、インターネットへのアクセスが大幅に増えるので、あまり推奨できません。

◇個別館環境設定      {簡単起動メニュー} {個別館環境設定} から起動します。

個別館環境データは、主に蔵書登録時に必要なデータです。Win書庫V4では、{書誌登録}メニュー画面から、その場で{個別館環境設定}メニューを呼び出すことが可能になっていますので、事前の登録漏れがあっても、対処可能です。

**注意：** 書誌データには、個別館データコード（書店コードなど）と個別館データ（書店名など）をセットで記録しますが、運用開始後に「コード」と「データ」の対応を変更すると、統計や検索で期待通りの結果が得られない場合があることに、ご注意下さい。

## {個別館環境設定} の起動画面

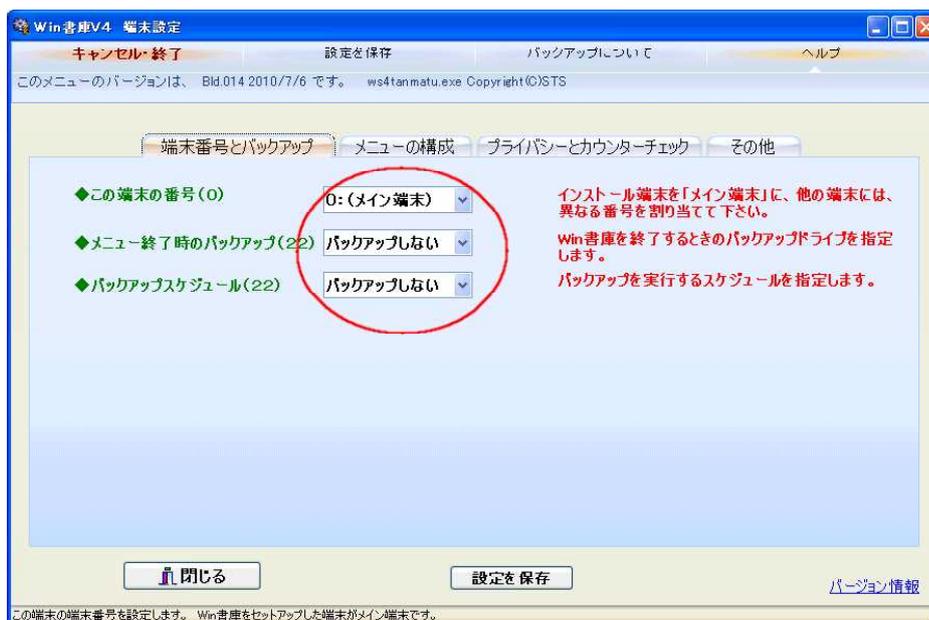


- ①コードに対応するデータをグリッドに直接入力（変更）します。  
もし入力カーソルが、編集対象のグリッドに表示されていない時は、対象のグリッドをゆっくり2回クリックして下さい。
- ②＜設定を保存＞ボタンをクリックして、データを保存します。

◇端末設定設定 {簡単起動メニュー} {端末設定} から起動します。

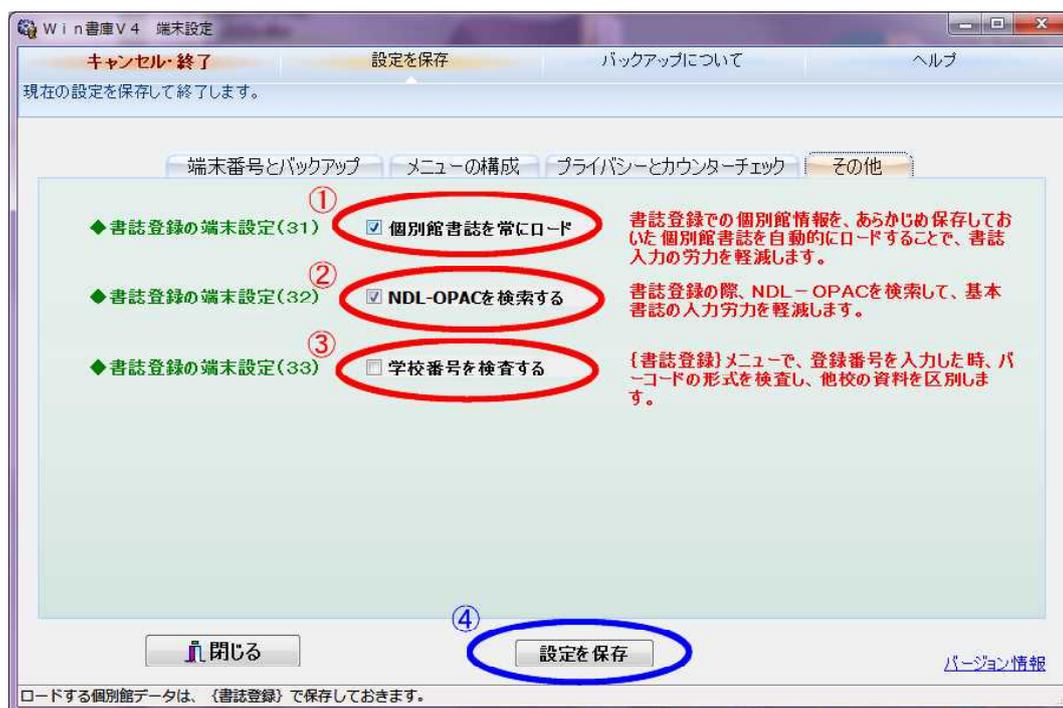
多端末運用を行う場合は、端末毎に異なる設定で運用することが可能です。  
端末設定で、特に重要な項目は、「端末番号の設定」と「バックアップ」です。

- ・ この端末の番号： 端末毎に異なる番号を割り当てます。また、最初にセットアップした端末（この端末に全てのデータが保存されます）は、必ず「端末番号 0（メイン端末）」で無ければなりません。（セットアップ時に設定済み）



う

- ・ **メニュー終了時のバックアップ：** Win書庫V4の終了時に、自動的に行うバックアップの設定です。バックアップ先はドライブ名だけを指定することができます。（フォルダーなどは指定できません。）容量などはチェックしないので、空き容量に注意して下さい。またバックアップについての注意事項が、メニューバー {バックアップについて} に示しましたので、ご確認下さい。
- ・ **バックアップスケジュール：** バックアップデータは、できるだけ分散させ、複数のバックアップデータを、異なるスケジュールで保管するのがベストです。適切なバックアップスケジュールは、システムの安全性を高めます。この点についての考え方も、メニューバー {バックアップについて} をご覧いただき、理解を深めて下さい。
- ・ **書誌登録の端末設定：** {書誌登録} メニューでの動作を設定します・



- ①個別館書誌を常にロード……固定内容の個別館データを登録しておき、書誌登録時に、自動的にその個別館データを呼び出して登録に利用します。個別館データが同じ場合に入力労力が軽減できます。
- ②NDL-OPACを検索する……書誌登録時にインターネットを利用して、NDL-OPACサーバーからデータを検索して登録に利用します。
- ③学校番号を検査する……書誌登録やカウンターメニューで、資料のバーコードをスキャンした時、他館の資料をチェックします。(館番号付きのバーコードを利用している場合)

#### 4. Win書庫V4の運用上の注意

以上でWin書庫V4の運用を開始できますが、以下に基本的な運用上の注意を列記しますのでお読み下さい。

##### ◇メニューを最新版にアップデートすることの重要性

フリーソフトやシェアウェアソフトと市販ソフトの一つの違いは、開発工程の違いです。市販ソフトの開発では、開発工程の中にデバグ（不具合修正）の時間やコストが十分に取られており、発売するまでに十分なデバグが行われています。(それでも、バグは残るのですが。) しかし、フリーソフトなどでは、この工程に時間やコストをかけることができません。もちろん可能な限りの動作確認は行っていますが、リリース後にも、たくさんのバグが見つかります。その為、開発者は日々バグ修正を行い、そのつどサポートサイトに修正版をアップデートします。フリーソフトの利用者は、最初にダウンロードしたプログラムをそのまま使い続けるのではなく、定期的に修正プログラムをダウンロードして、最新版に更新する必要があります。また、不具合を発見したら、積極的に掲示板に書き込んで、不具合の存在を開発者に知らせて下さい。一般的に、開発者はリリースしたソフトを実務として毎日使う訳ではありません。発見されたバグ修正と使い勝手の向上に取り組むのが精一杯です。つまりフリーソフトのデバグ工程は、利用者に委ねられていると言ってもよいのです。このことを理解していただいた上で、フリーソフトやシェアウェアをお使いいただきたいのです。今お使いのプログラムは、完全なものではありません。新しくアップロードされたプログラムが、一歩完全なものに近づいたプログラムですので、ぜひ最新版をアップロードして下さい。

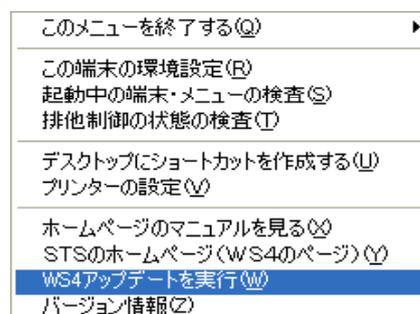
最新版を入手する方法      最新版を入手する方法はいくつかあります。ここでは、Win書庫V4実行中に行う3つの方法を紹介합니다。

- ① 各メニューの「メニューバーのヘルプ」から、<このメニューの最新版をダウンロード>を実行して下さい。お使いのメニューが、その時点の最新版に置き換わります。(お使いのメニューが既に最新版であっても、ダウンロード更新されます。)

※ メニューバーの<ヘルプ>には、「バージョン情報」というサブメニューがあり、メニューの開発Bld（ビルド）番号とリリース年月日を知ることができます。この情報で、ご使用のメニューが最新版かどうかを判断します。

② メニュー {メニュー管理} を実行して、全てのメニューのBldをチェックし、更新が必要なメニューを抽出してアップデートを行います。(旧バージョンと同じアップデート方法です。)

③ スタートメニューの画面上で、マウス右クリックすると、「コンテキストメニュー」が表示されます。ここから<WS4アップデートを実行>をクリックすると、前月一ヶ月間に修正されたプログラムを、一括して修正することができます。



注意：③を実行するタイミングによっては、より新しい修正版が①や②で取得できることがあります。

**古いBldのメニューで生じる不具合は、最新Bldのメニューで解消されている可能性があります。問題が発生した場合は、必ず最新のBldでの動作を確認の上、問い合わせして下さい。**

#### ◇サポートについて

これまでのWin書庫は、直接サポートは行わず、全て掲示板で問題解決を図ってきました。しかし、STSが時々掲示板に書き込むように、「古いBldでの問題を質問する」、「問題点(結果)のみを書き込み、前後の状況が不明」、「解決したのかどうかの報告がない」など、困惑するようなケースが結構多くありました。また、利用図書館固有の問題や、Windowsやネットワークなど、本来それぞれの図書館で解決すべき問題を質問するなど、フリーソフトとしてのサポートを超えるケースもあります。このような問題に対しても、可能な限り解決に協力してきましたが、このようなサポート依頼が年々増える傾向にあります。今回リリースするWin書庫V4は、これからのWindowsに継続して対応させるための多くの変更点を含んだもので、新しい仕組みがいくつも組み込まれています。その為、これまで以上に、「個別のサポート」が必要になるものと予想しています。STSは、Win書庫V4のリリースを機に、サポート方法を次のように変更することにします。

#### ・会員登録制によるサポートの有償化

年会費制のサポート会員(通常会員とWEB会員)を募集します。会費は極力負担をかけない金額にしたいと考えていますが、STSを継続的に運営する為にも、利用者の方にも負担をお願いしたいと考えています。詳細が決まりましたら、STSホームページに掲載します。

**※サポートは有償ですが、Win書庫V4そのものは、これまでどおりフリーソフトです。**

#### ・会員に対する個別サポートの実施

各館固有の問題に対しても、正式にサポートします。要請があれば、出張サポートも考慮します。有償サポートになれば、踏み込んだサポートも可能になり、より安心してご利用いただけるようになります。

#### ・会員に対する小規模カスタマイズ機能の提供

バーコードの形式やシステムに影響を及ぼさない範囲でのカスタマイズに応じることができるかも知れません。(STSにも図書館の運営に関する思想があるので、どんなことでもOKと言う訳ではありません。相談の上です。)

- ・ 会員専用連絡先（メール）の設置

会員校で生じた問題は、専用メールでやりとりすることになります。問題解決に必要なファイルのやりとりも専用メールで行いますので、個別の問題も扱いやすくなります。

- ・ 従来の掲示板の継続

従来の掲示板は引き続き残しますが、STSからの回答は、バグが原因と予想される場合に限定します。この掲示板設置の本来の目的も、STSとのやりとりではなく、書庫利用校相互の情報交換でしたから、より本来の目的に近い掲示板となります。会員登録されない場合でも、今後もV4を含めてWin書庫を利用される方は多いと思います。掲示板を利用して、相互に問題解決できるように、積極的に掲示板に「質問」や「回答」をお寄せ下さい。

#### ◇バックアップ

図書管理システムは、書誌データを中心とした巨大なデータベースシステムです。書誌の入力には大きな労力を必要とします。万一、データを失うことがあれば、復元には多大のコストがかかります。バックアップは、万一の場合にそなえ、労力をかけずにデータ復元を行う最善の対策です。

Win書庫V4には、終了時に自動的にバックアップを実行する機能があります。この機能を有効にすることで、最低限のデータ保証が可能です。ここでは、バックアップについての基本的な注意を示します。

- ① バックアップ先のドライブは、書庫がセットアップされているハードディスクとは異なるハードディスクを指定して下さい。（同一のハードディスクの場合、機械そのものが故障した時、バックアップデータも一緒に壊れます。）
- ② バックアップは、正しいデータ（問題の無いデータ）で行う必要があります。何か異常があった日にバックアップを実行すると、以前作成した正しいバックアップデータが、異常のあるバックアップデータに書き換えられます。「何か問題があった日にはバックアップしない」ということを理解して下さい
- ③ 端末が複数ある場合は、端末毎にバックアップスケジュールを変えて下さい。異なる日付のバックアップデータを持つことで、より安全性が高まります。
- ④ バックアップ以上に、データの復元は慎重に行わなければなりません。{データ復帰}メニューの「データ復元について」をよくお読み下さい。

#### ◇各メニューのメニューバー<ヘルプ>

<ヘルプ>には、基本的に以下のメニュー項目が含まれます。（全てのメニューに、同じ項目があるとは限りません。）

- ・ このメニューについて： 運用上特に注意すべき点があるメニューについて、この項目があります。基本的なことで、知っておいてほしい内容などが記載されていますので、必ずお読み下さい。

- ・ **WEBマニュアルを見る：** インターネットを通じて、STSホームページにある Win書庫V4 の個別メニューのマニュアルを参照します。同じ内容のPDFファイルが書庫セットアップドライブの<¥WS4¥マニュアル>フォルダーにあります。WEB上のマニュアルは、内容が更新されている可能性があります。
- ・ **バージョン情報：** このメニューの「Bld番号」と「リリース年月日」が表示されます。
- ・ **このメニューの最新版をダウンロードする：** このメニューを単体で最新版に更新します。ただし、現在使用中のプログラムが既に最新版の場合は、更新を行っても変化はありません。

#### ◇Win書庫V4スタートメニューの最小化状態

スタートメニューは、書庫のさまざまなメニューを起動する為の、一種のランチャーです。一つのメニューを起動すると、スタートメニュー自身は、デスクトップ下の「タスクバー」にアイコンとして最小化されます。起動したメニューを終了すると、再び元の大きさに復帰するのですが、状況によっては、最小化したまま復帰しない場合があります。(この状態で、デスクトップの「Win書庫V4アイコン」をダブルクリックしても、スタートメニューは起動しません。既に起動しているので、重複起動できないから。) その場合は、タスクバーのアイコンをクリックして復帰させて下さい。

メニューによっては、スタートメニューを完全に閉じてから、選んだメニューが起動するものがあります。その場合は、タスクバーにスタートメニューのアイコンはありません。再度、デスクトップの「Win書庫V4アイコン」をダブルクリックして、スタートメニューを起動して下さい。

#### ◇書誌データのユニコード化

既にSTSホームページでもアナウンスしていますが、Win書庫V4の全角文字（2バイト文字・日本語）の文字コードは「ユニコード」です。旧バージョンの書庫が「SiftJISコード」でしたので、大幅な変更と言えます。この変更は、「世の流れ」で、今後コンピュータの世界では、文字コードはユニコードに置き換わってゆくでしょう。(既にかかなりの部分がユニコード化されています。) 直接的には、Win書庫の開発環境がユニコード化されたため、ユニコードのプログラムしか作れなくなってしまったからです。ユニコード化にはメリットもありますが、書庫に関して言うとデメリットの方が多いかも知れません。最大のデメリットは、「日本語コードに互換性が無い」ということです。つまり、これまでのWin書庫のデータを、そのまま引き継ぐことができないのです。SJISコードをユニコードに変換するコンバーターのような機能を組み込めばいいのですが、①プログラムが巨大になる ②組み込むプログラムのライセンスが高価 ③組み込んだ後のプログラム処理が複雑になる・・・などの理由で、コンバーター機能を組み込んで、以前の書庫データを引き継ぐことは断念しました。これは新たな書庫の誕生を意味します。バージョン番号こそ、V3\*からV4と連続していますが、Win書庫V4の内部構造は、これまでの書庫とは全く別のものです。データの互換性を考慮する必要がないということは、Win書庫をまったく新しい仕様で作り直せるということです。Win書庫V4は、2009年から時間をかけて、データ構造の設計から作り直したバージョンです。

#### ◇旧バージョンのWin書庫データをV4で利用する

旧バージョンの書庫で {テキスト出力} したデータを、Win書庫V4で {データインポート} します。この方法でインポートしたデータの一部が、文字化けを起こす場合があります。SiftJISコードをユニコードに変換する過程で、一部の文字はどうしても正しく変換できない為です。変換後のデータを、{書誌登録} で表示し、

個別に修正する必要があります。(V4では、NDL-OPACのデータ取得を強化していますので、再度検索して書誌データを取得する事で、文字化けも同時に解消します。) また、Win書庫V4で採用されているいくつかの個別館書誌についても、旧バージョンには対応するデータが無いので、データは未入力の状態です。これらのデータも追加入力して下さい。

STSは、登録番号とISBNデータから、NDL-OPACを連続して検索して書誌を自動的に登録するソフトを開発しています。このソフトと上記方法を併用すれば、より効率的に旧バージョンのデータを新バージョンにインポートできますが、NDL-OPACサーバーに過大の負荷をかけるおそれがあるため、このソフトを公開することはできません。十分なインターバルをとりながら、アクセスの少ない夜間に十分注意して作業する必要があります。使い方を間違えれば、以前、岡崎市立図書館で起こったような、サーバー攻撃と間違われてしまいかねないソフトなのです。せっかくの機能なのですが、ユーザーの皆様にご自由に御使用下さいという訳にはゆかないので、STSの方で、データ変換サービス(有償)を行う予定です。

#### ◇書誌登録での必須入力書誌項目

Win書庫V4での必須入力書誌項目は、「タイトル」だけです。他の書誌項目が入力されていなくても、タイトルが入力されていれば登録可能です。

Win書庫V4では、旧バージョンの「仮登録」の概念はありませんが、不完全な書誌情報で書誌登録を行うと、統計値を集計する際、「不明」に集計される冊数が増加します。「不明」をなくす為には、分類番号と次の個別館書誌項目の入力を行って下さい。

- ・書店
- ・受入種別
- ・受入費目
- ・受入年月日
- ・資料種別

#### ◇WEB運用について

WEB運用は、複数の図書館がデータを共有しながら運用する簡易型資源共有システムです。NDL-OPACの検索を通じて、他館の所蔵を知ることができ、同時に借受依頼を送信する事が可能になります。(依頼を受けた館は、リアルタイムで応答できます。) WEBサーバーを使用した運用となるため、通常運用以上にサポートが重要になります。そのため通常のサポート会員とは異なる、WEBサポート会員になっていただく必要があります。また、WEBサーバーをどのように準備するかで、2とおりの方法があります。

- ・それぞれの会員校で準備する

PHP5が動作するWEBサーバーが必要です。フォルダーやデータなどの配置について、STSと協議して、会員校の方で設定して頂きます。WEB会員の会費以外の費用は発生しません。

- ・STSが提供するサーバーを使用する

サーバーの設定およびメンテナンスはSTSで行います。WEB会員の会費以外に、サーバーのレンタル費用が必要となります。

WEB運用は、通常運用からいつでも変更可能ですが、「他の共有館と重複しない館番号(学校番号)」が必要です。館番号は、運用開始後は変更できないので、通常運用でWin書庫V4を導入する場合でも、将来の事を考慮して館番号を決めるようにして下さい。